

在学中は図書館における多文化サービスを研究課題としていました。現在は公共図書館に司書として勤務しています。LSSは学際的な専攻のため、情報学、歴史学、経済学など、様々なバックグラウンドを持つ学友と意見交換することができ、幅広い視点から研究課題に取り組むことができました。カリキュラムでは、ユーザーの視点を引き出すための授業が設置されており、仕事で利用者対応をする際に授業で学んだ知識が役立っています。



文化財保存を専門とする博物館学芸員ですが、ライブラリーサイエンスという新しい視点をもって研究したく入学しました。授業は図書館情報学、記録管理学にとどまらない多様性があり、視野の広がりを与えてくれています。通学は仕事の合間ですが、長期履修制度のお陰で、支障無く両立しています。将来は自身の専門と共に、この研究分野の発信に加われたらと思っています。

学会発表例

Yuki Kitanaka, Kazuhiro Takeuchi, Sachio Hirokawa.

Predicting Learning Result of Learner in E-learning Course with Feature Selection Using SVM, Proc. 9th International Conference on Education Technology and Computers(ICETC 2017)

Kana Fukushima, Emi Ishita, Yukio Watanabe.

Exploring Issues and Challenges in Writing Support in Japanese Universities. Proceedings of the 8th Asia-Pacific Conference of Library & Information Education and Practice, A-LIEP 2017, Bangkok, November 13-15, 2017. (pp.98-107)

Soichiro Aihara

Doctoral Students in the American Research Universities: The Difference by Major Field, 7th International Congress on Advanced Applied Informatics, July 11, 2018

加藤和歳・杉原敏之・国生知子・遠藤啓介

「九州北部豪雨の被害状況と対応からみた被災文化財救援の課題と活動に関する検討」, 文化財保存修復学会第40回大会研究発表要旨集, 文化財保存修復学会, 2018年

Kazuhisa Noguchi, Eisuke Ito

Holonomic Function of 2 Parameter Logistic Model Item Response Theory Parameter Estimation, 2018 10th International Conference On Education Technology And Computers (ICETC2018), J113, October 26-28, 2018

鳥飼かおる

「1965年夏 三池工業高校甲子園初優勝」に見る炭都・大牟田のイメージ」, 2018年都市史学会大会, 2018年

ライブラリーサイエンス専攻の理念と目的

- 1 ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
- 2 図書館情報学と記録管理学を統合した一体教育
- 3 情報の管理・提供を実現するための、データエンジニアリングを含む情報通信技術の教育
- 4 電子媒体の情報も対象とした、情報の作成・流通・利用に関する情報法制の現状と課題についての教育
- 5 これからの情報の管理・提供のあり方、知の創造・継承活動を支える「場」のあらたな機能などについて探求する能力を身につけさせる教育

養成する人材像および進路

本専攻からは、文系と理系の枠を越えて、社会の変化に対応できる高度な専門知識と実践志向性にあふれた人材が社会に送り出されます。たとえば、以下のような人材を育成します。

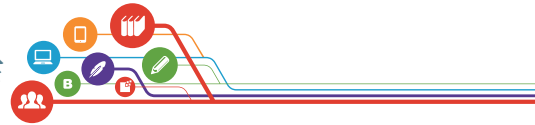
- 国、地方公共団体、民間企業におけるアーキビスト、レコードマネジャーなど記録管理の専門家
- 特定の領域に関する専門知識を有するサブジェクトライブラリアンなどの専門職
- 情報通信技術を応用し、理論構築やシステムを開発するデータエンジニアなどの専門職
- 組織において、情報を管理・提供しながら、問題解決・戦略立案等を担う管理者
- 「ライブラリーサイエンス」という情報の管理・提供に関わる新しい学問領域を進化、発展させる研究者

主な就職実績

- ▶ 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- ▶ 株式会社ワンビシ・アーカイブズ
- ▶ 株式会社ワークスアプリケーションズ
- ▶ 株式会社ゼンリン
- ▶ 株式会社TIS西日本
- ▶ 日立オートモティブシステムズ株式会社
- ▶ 株式会社日立ドキュメントソリューションズ
- ▶ 株式会社オービック



学生の声



私は本課程で、「ユーザー視点での情報管理」について、レコードマネジメントやシステムなど様々な分野から学びました。それらの知識や、修士論文を粘り強く纏め上げた経験を、「プロジェクトが円滑に進むように情報管理を行う」という今の仕事に活かしています。

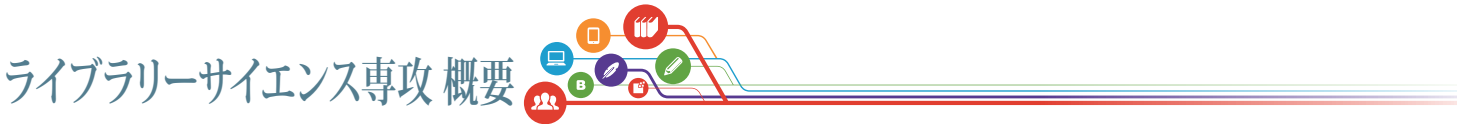


ユーザーの視点から情報の管理と提供のあり方を考える、という専攻の理念に惹かれて入学しましたが、図書館情報学から記録管理学、情報科学まで、幅広く学ぶことができ、インターンシップ等でも貴重な経験を得ました。当初は民間企業への就職も考えましたが、アーカイブズ学を軸に修士論文に取り組むなかで最先端の議論に魅力を感じ、研究・教育の道に進むことを決意しました。専攻での領域横断的な交流とそこで得た専門知識を活かして、知の創造と継承という営みに貢献していきたいと思っています。



文書・情報管理の民間企業に勤務していましたが、アーカイブズ学を体系的に学び、地方自治体の公文書管理について研究したかったため、ライブラリーサイエンス専攻に入学しました。インターンシップや授業で情報管理の実務に触れられることがライブラリーサイエンス専攻の魅力だと思います。





ライブラリーサイエンス専攻 概要

情報管理・提供の意義と課題

20世紀後半におけるICT環境の急速な発展に伴い、人々はインターネットをはじめとする多様なメディアがもたらす情報の大海に置かれ、情報化社会を享受しています。しかし、その反面では、従来の法制度や技術ではもはや充分に対応できない新規で重要な諸問題が次々に生起しています。

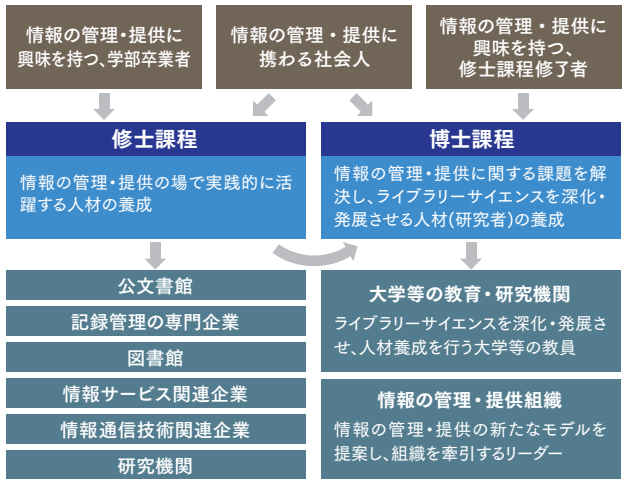
創造性豊かな活動を展開するためには、知や情報を適切に入手する必要がありますが、その基盤となるのが信頼できる流通、管理、そして活用のシステムです。また、公行政、民間企業を問わず、組織の有効な運営戦略のためには、ステークホルダーや市民に対するコンプライアンス、および情報公開と、これを可能とする適切な文書記録管理が不可欠です。

本専攻では、問題の複合的な性格に対応して、人文科学、社会科学、学習科学、情報学などから学際的にアプローチし、実践的な課題に現場で応えることができる高度な専門人材を育成します。

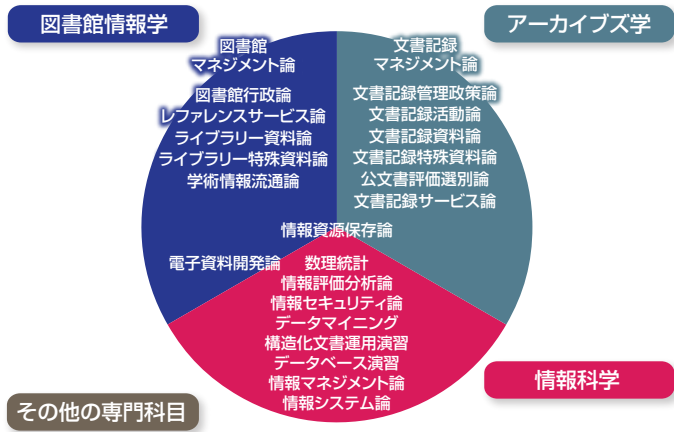
教育研究上の理念／入学から修了まで

理 念

ユーザーにとって真に意義ある情報の管理・提供の実現



カリキュラム



その他の専門科目

情報サービスと著作権 学習科学 現代情報法制論 LSS特別講義1・2

※本学府他専攻、および他学府の科目も可(合計4単位まで)

修士課程 修了要件36単位以上

学府共通科目

統合新領域最先端セミナー

特別研究

特別研究 I・II

基礎科目

ライブラリーサイエンス概論

PTL・インターンシップ科目

ライブラリーサイエンスPTL I・II

インターンシップ

博士課程 修了要件14単位以上

ライブラリーサイエンス特別研究

ライブラリーサイエンス特論

プレゼンテーション演習

※基盤的知識・能力が不足する場合、
修士課程で開設されている授業科目を履修するよう指導

修士論文題目

- 電子図書館と著作権・フェアユースについて
- 自校史教育と大学アーカイブズ
- 有馬家旧蔵資料のアーカイブズ学的研究 一久留米市立図書館所蔵資料を中心にー
- 中国の統計データの信憑性を巡る議論についてー失業率とGDPを中心にー
- 研究者による論文選択の実態に基づく文献検索講習会の提案
- 大学における授業外ライティングサポートの質保証
- 電子漫画読者コメント分析
- 藪苔類標本データベースのためのデータセットの分析
- ウェブによる図書館の情報発信と図書館利用の関係 等

ライブラリーサイエンス専攻 進学に向けて

Project Team Learning (PTL)

専門分野を異にする複数の教員と学生が、共通のテーマのもとに、共同して取り組むチームラーニングの演習

- 学生自らが主体的に課題を設定し、その課題の解決に向けた取り組みを行う
- コミュニケーション能力を実践的に養うとともに、様々な専門分野から多角的に課題やその解決に取り組むことで、より深い理解と知の交流を促すことを目的としている

PTLI(1年後期)

- 高度情報化社会における情報の新たな提供法と利用法ならびに教育学習環境に関し、図書館などでのフィールド調査を基に課題を設定し、技術的・方法的な観点、および、法的な観点からの検討を行い、課題解決に向けた取り組みを行う

PTLIⅡ(2年前期)

- 資料の性格による垣根(文献、文書・記録)を取り払い、資料や情報を総合的に管理、利用するための方法論の構築に取り組み

PTLIのテーマ例

- 大学図書館の入館者数(利用者数)増大を目指した、学生協同の取り組み
- QIRへの登録数を増やすための取り組み
- 九州大学附属図書館における留学生サービスの向上
- 公文書館のEAD(Encoded Archival Description)利用のためのマニュアルの提案
- 再利用を考慮した大学業務文書の管理の現状と課題

PTLIⅡのテーマ例

- 古典籍データベースの記述と検索手段の比較検討
- 特定主題に関する情報の一元提供:長崎・原爆資料と山本作兵衛コレクションを題材として
- 目録作成における課題の抽出と解決:九州大学大学文書館資料を事例として

インターンシップ

- 大学や企業等の現場において、一定期間、研修生として働くことで、ユーザーのニーズや知の創造・継承プロセスを把握する能力を身に付けるとともに、現場で現状における課題を認識するための科目
- 単なる現場研修ではなく、担当教員による事前指導(研修内容・目的の説明)および、事後指導(口頭報告およびレポート提出)を行う
- 事前指導・実習・事後指導を含めた研修期間は45時間以上
- 1年前期(夏季休業期間)を基本とするが、受入機関や学生本人の都合により、1年後期、2年前期での実施も認める
- 研修受入機関
大学図書館、専門図書館／国立公文書館／レコードマネジメント専門企業 など

社会人を対象とする特別選抜

- 本専攻の趣旨に合致する社会人としての経験を重視して選抜を行う
- 対象:入学時において官公庁、民間企業等に勤務した経験を原則として3年以上有する者
- 希望指導教員の氏名および「出願希望書・職務経歴書」等を提出→専攻が確認→受験可否の通知
- 選抜方法
出願書類審査、小論文審査及び口頭試問を行い、経験、問題意識、思考力、将来計画等を総合的に評価する。
- 定員:若干名
注)社会人を対象とした特別コースはありません

専攻に関する参考文献

- 渡邊由紀子, 富浦洋一, 吉田素文, 岡崎敦. 九州大学大学院「ライブラリーサイエンス専攻」の構想と意義. 情報管理. 2011, 54(2), p.53-62.
<http://jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/johokanri/54.53>
- 石田栄美. 九州大学大学院ライブラリーサイエンス専攻の概要と附属図書館との連携. 名古屋大学附属図書館研究年報. 2012, 10, p. 1-11.
<http://hdl.handle.net/2237/16264>
- 三輪宗弘, 折田悦郎. 九州大学大学院「ライブラリーサイエンス専攻」について:記録管理・アーカイブに大いなる夢を託して. 記録と史料. 2012, 22, p.78-82.
<http://hdl.handle.net/2324/24553>
- 有川節夫, 渡邊由紀子. 変わりゆく大学図書館員の役割. 情報の科学と技術. 2014, 64(6), p.200-206.
<http://hdl.handle.net/2324/1446199>

入試関連情報

お問い合わせ先・
募集要項請求先

〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学大学院 統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻
工学部等教務課統合新領域係

TEL. 092-802-6501
Mail. kottougou2@jimu.kyushu-u.ac.jp

※詳しくは、統合新領域学府のホームページをご参照ください。

<http://www.ifs.kyushu-u.ac.jp/>
<http://lss.ifs.kyushu-u.ac.jp/>